

日新製鋼の溶融亜鉛めっきステンレス鋼板「タフテンZ」が徳島県鳴門市の旧鳥居龍蔵記念博物館の屋根耐震改修工事で採用された。博物館は竣工後、災害物資保管庫や多

日新製鋼

溶融めっきステンレス鋼板

天守閣の屋根耐震改修に採用

神社仏閣を中心とした建築物において耐震性が高い屋根材との評価を受け、市場への浸透が進んでいるという。

目的ホール、市民ギャラリーなどを備えた複合施設「トリードなると」として始動。3月半ばの新装開業から半年近くが経ったいま、タフテンZが母材で元旦ビューティ工業製のプレス成型金属瓦「本瓦棒元旦'84」が市を一望するシンボルに彩りを添えている。

タフテンZは、周南製鋼所で製造したステンレス鋼板を堺製造所で溶融亜鉛めっき処理したもので、日新製鋼建材（当時は日新総合建材）が販売した。「本瓦棒元旦'84」は建築物の耐震性能を確保するため、粘土瓦に比べて重量が10分の1と軽く、構



元旦ビューティ工業のプレス成型金属瓦で対応

改修の対象となったのは、市東部で紀伊水道を臨む妙見山の中腹に立地する撫養城跡で1965年(昭40)に建立した天守閣。鳴門市出身の人類学者、故鳥居龍蔵氏の収集資料を展示する博物館として利用後、2012年に県から市に移管。今回の改修工事を機に市民の交流や南海トラフ地震が発生した際の避難場所や地域住民が憩う場にリニューアルした。

「トリードなると」をめぐるのは、元旦ビューティ工業のホームページ (<http://www.gantan.co.jp/>)で外観を空撮した動画を公開している。